

外来だより

発行者

大野浦病院

編集 外来

TEL:0829-54-2426

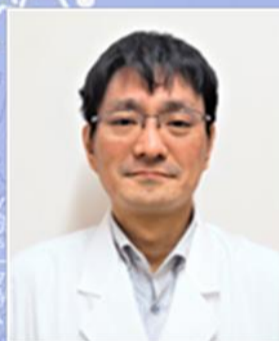
脳神経内科とは

脳神経内科は、脳や神経系に関連する疾患や問題を診断し治療する医療分野です。脳、脊髄、神経、および筋肉に関連する障害や病気、例えばてんかん、脳卒中、てんかん、神経変性疾患（パーキンソン病など）、頭痛、神経筋疾患などに対する診断や治療を専門としています。気になる症状があればお気軽にご相談ください。

毎週月曜日

午前 9時～11時半

午後 13時半～16時半



脳神経内科

渡邊 友彬



<パーキンソン病>

パーキンソン病は「ドーパミン」という運動の調整に必要な物質を分泌する細胞が減ってしまうために起こる病気です。身体の動きがのろく、小さく、ぎこちなくなります。

そのために歩行が小刻みになったり、声や文字が小さくなったり、さらには表情も乏しくなります。さらに手足が震えたり、関節が固くなってスムーズに動かせなくなったりします。その他には、発症前から便秘が起こり、においが分かりにくくなると言われています。

パーキンソン病の4大徴候

手足が震える
(振戦)



手足の筋肉がこわばる
(筋強剛)



身体の動きが遅くなる
(運動緩慢)



倒れやすくなる
(姿勢保持障害)
姿勢を保てなくなります



<てんかん>

てんかんは脳細胞が一過性に過剰に興奮して意識を失ったり、けいれんを起こしたりする発作を繰り返す病気です。てんかんと言えはけいれんをイメージされる方が多いかもしれませんが、けいれんしない発作もあります。特に高齢者ではけいれんせず反応が乏しくなるだけの発作が認知症と間違われることもあります。発作中は一点を凝視したり、口をもぐもぐしたりする動作が見られることがあります。診断には脳の活動を見る脳波検査を行う必要があり、疑われる場合は脳波検査が可能な病院にご紹介します。発作が落ち着いていれば投薬調整を行わせて頂くことも可能です。